

令和5年度福岡県筑紫保健所運営協議会議事録（要旨）

- 1 日時 令和5年8月2日（水）14：00～15：10
- 2 場所 筑紫総合庁舎2階大会議室
- 3 出席者 委員20名中18名出席、2名代理出席  
事務局（筑紫保健福祉環境事務所）14名出席  
傍聴者 なし

4 議事

(1) 令和5年度筑紫保健所運営協議会各部会の報告について

- ア 救急医療部会 令和5年7月7日開催
- イ 保健事業部会 令和5年5月18日開催
- ウ 精神保健福祉部会 令和5年7月14日開催

今年度開催した3部会について、事務局から審議結果が報告された。

【意見・質疑応答】

（質問）

救急医療部会で、小児科の診療数が著しく増加していると報告があったが、何か理由があるのか。筑紫地区以外の方が受診されているのか。

（回答）

著しく増加したのは、休日夜間急患診療実績の中の小児救急の件数であり、輪番制、当番病院の受診数が前年度の73件から699件と大きく増加した。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大で、筑紫地区の小児救急医療機関を受診できなかった方が通常の一次救急、二次救急に流れたと推測している。

小児救急医療機関の受診者数も昨年度より2,700件ほど増加しており、筑紫地区以外の方も受診されていると考えられる。

(2) 令和5年度筑紫保健福祉環境事務所各課系の事業報告及び取組について

事務局より報告

【意見・質疑応答】

（質問）

精神保健係の取組について、筑紫管内の自殺者数が、若者および女性の人数が増加していると報告があったが、年代、人数等について詳細を知りたい。20代が多いと聞いている。

（回答）

若者の自殺者数に関しては、中学生以下から高校生、大学生、専修学生までの自殺者数で2016年から2020年の合計で17人、2017年から2021年の合計が22人となっている。筑紫管内の女性の数に関しては、令和元年が27名、令和2年が18名、令和4年が28名となっている。

2017年から2021年の20代から70代までの女性の数は、ほぼ横並びだが、40代、60代がいちばん多く、その次が70代となっている。

自死者は20代が特別多いというわけではないが、精神科に医療保護入院している方の中で希死念慮のある患者は10代女性が一番多く、次いで20代の女性が多い。

（質問）

「感染症診査協議会」の診査という文字は診察の「診」で間違いはないか。

（回答）

間違いありません。

(3) 新型コロナウイルス感染症総括、健康危機対処計画の策定及び感染症対策主幹の設置について

事務局より報告

【意見・質疑応答】

(質問)

性感染症が若い方に広がっているのを心配している。

県の梅毒の状況はどうなっているのか。

(回答)

管内でも、性感染症は増加の一途をたどっている。

県においては、昨年度、梅毒が急増したことから主要駅へのポスター掲示、大型商業施設での啓発、テレビ取材等を行うことで周知を図っている。

性感染症というところでアプローチが非常に難しいが、効果的な方法を考えて実施していきたい。

(質問)

保健所内でも相談窓口を設置しているか。

(回答)

性感染症の相談窓口は、毎週火曜日に実施している。

これとは別に電話相談は常時対応している。